

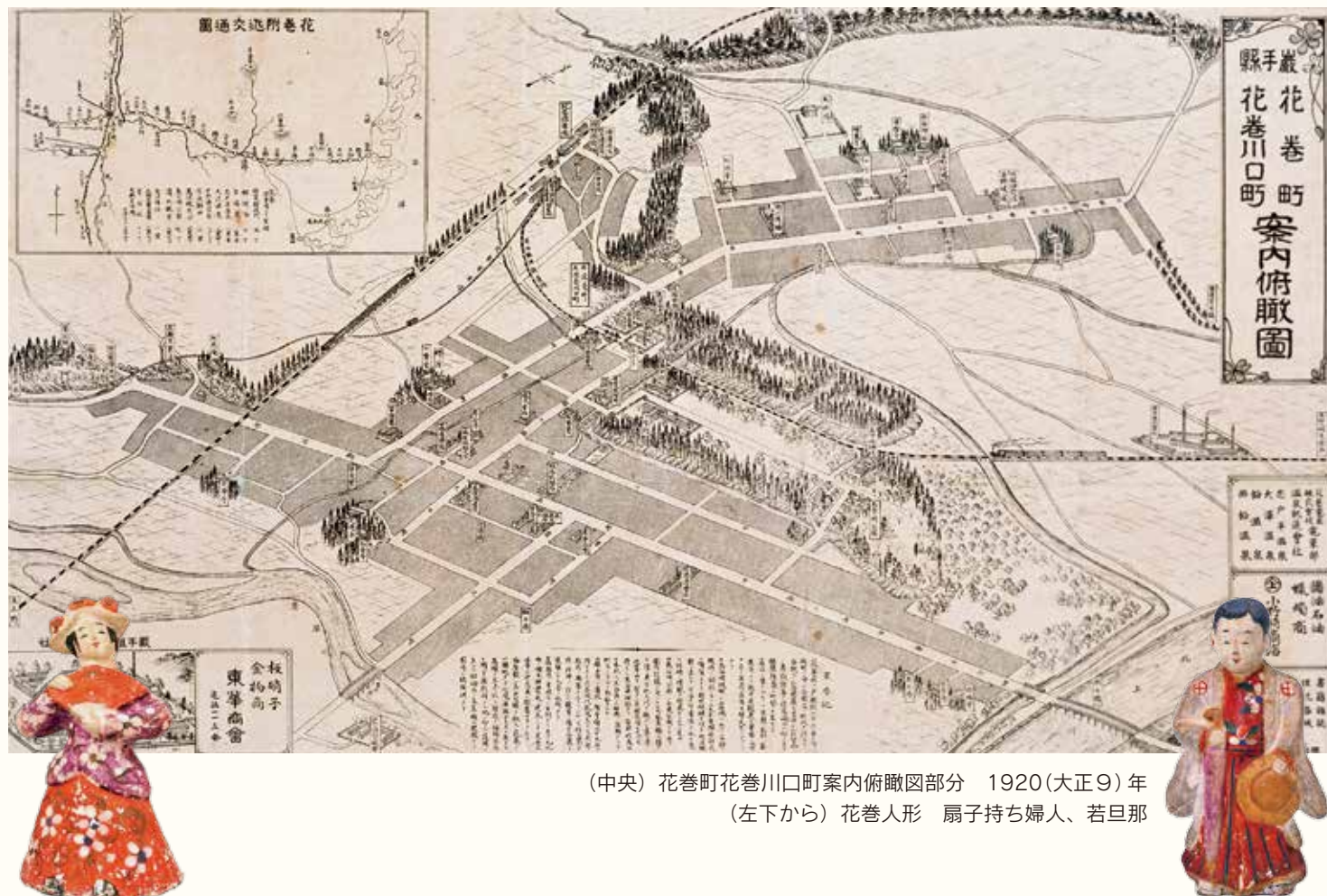
花巻市 博物館

目次／P1 花巻の近代化／P2-3 特別展：[写真家が捉えた昭和のこども]／P4 平成30年度 展示会・講座のご案内／P5 花巻市博物館体験学習メニュー／P6 活動レポート：[小中学校「博物館活用アラカルト」]／P7 館長コラム・行事予定・インフォメーション／P8 花博コレクション



だより

2018.4
No. 54



(中央) 花巻町花巻川口町案内俯瞰図部分 1920(大正9)年
(左下から) 花巻人形 扇子持ち婦人、若旦那

今年は、明治時代が始まって150年という節目を迎えました。これに合わせたイベントが各地で開催され、盛り上がりを見せています。

花巻では明治時代になると、稗貫・和賀地方を統括していた花巻城にかわって、個々の町村ごとに行政区画が再編されました。1890(明治23)年には、東北本線の上野―盛岡間が開通し、花巻駅が現在地に開業。これに伴い、江戸時代に花巻城を中心に発展した城下町が、次第に花巻駅を中心とした街並みへと移り変わり、現在の市街地の形成に繋がりました。このように、長い歴史の中で時代によって景観が変わり、さらに生活スタイルも多様に変化してきました。

さて、今年度に当館で開催する展示会は、花巻の旧石器時代から昭和までの暮らし・モノ・ゆかりの人物をテーマにした展示会が目白押しです(詳しくはP4をご覧ください)。この節目の機会にぜひ、博物館で花巻の歴史をたどってみてはいかがでしょうか。

【特別展】写真家が捉えた

昭和のこども

期間：平成30年7月7日(土)～8月26日(日)



【本展覧会で展示する写真を
撮影した写真家たち】

木村伊兵衛 (1901-1974)
入江 泰吉 (1905-1992)
熊谷 元一 (1909-2010)
土門 拳 (1909-1990)
植田 正治 (1913-2000)
桑原甲子男 (1913-2007)
飛弾野数右衛門
(1914-2008)
緑川 洋一 (1915-2001)
濱谷 浩 (1915-1999)
山端 庸介 (1917-1966)
林 忠彦 (1918-1990)
井上 孝治 (1919-1993)
岩宮 武二 (1920-1989)
芳賀日出男 (1921-)
長野 重一 (1925-)
麦島 勝 (1927-)
田沼 武能 (1929-)
熊切 圭介 (1934-)
齋藤 康一 (1935-)

逆上がり 伊豆・静浦
1953(昭和28)年 土門 拳

◆7月7日(土)・8日(日) (無料・申込不要)
ワークショップ「七夕飾りを作ろう」



◆7月28日(土) (材料費300円)
昭和の遊びワークショップ「コマを回そう」

※当日絵付けをしたコマはお持ち帰りいただけます。
• そのほかにも、講演会や、夏休みの工作にぴったりのワー
クショップがもりだくさんです。ぜひ遊びに来てね!!



お祭りの余興を見るこどもたち 東京・佃島 1956(昭和31)年 土門 拳

子どもは時代を映す鏡です。

昭和の64年（昭和元年と末年はそれぞれ数日ずつなので、実質62年余り）は、歴代元号最長であったばかりでなく、日中戦争から第二次世界大戦、敗戦・復興・成長とまさに疾風怒濤の時代でした。子どもたちを取り巻く生活環境も価値観も、短期間のうちにどんどん変化していきました。

戦前の子どもたちは穏やかな暮らしの中で伸びやかに暮らしていました。しかし、日中戦争がはじまると否応なしに戦時体制に組み込まれていきます。続く第二次世界大戦の戦中、そして敗戦後は、困難な時代を生き抜くことになります。親を手伝い働く子どもたちもいました。その一方で、学校生活は楽しいもので、教室には笑顔があふれ、休み時間になると校庭へ飛び出していました。戦後のベビーブームではたくさんの子どもたちが生まれ、路上で戯れ遊ぶ姿がどこでも見られたものでした。祭りの日は特別で、真剣に祭りに参加したり、夢中で遊んだりしました。その後、昭和30年代から日本は高度経済成長を遂げることになりますが、その陰で子どもたちは様々な影響を受けていました。

本展覧会では、日本の写真史に名を遺す写真家の作品を中心に、各地方で撮影をつづけた写真家が捉えた、たくましく微笑ましい姿を含め、昭和の子どもたちの姿を展示します。

展示担当の私も昭和の時代に生まれ、バブル経済のはちきれそうなはじっこで子ども時代を過ごしました。お父さんもお母さんも、「戦争を知らない子どもたち」でしたし、おじいちゃんやおばあちゃんも、戦前・戦中を生き抜いた子どもたちでした。

昭和の子どもたちの多くは、昭和・平成とこれから決まるもう一つの元号の時代を生きていくことになります。

昭和の時代に子どもだった人には、懐かしいあの頃を、平成に生まれたあなたには、昭和生まれの人たちが歩んできた時代を、子どもたちには時代の変化を学ばせかけを、著名な写真家がレンズ越しに捉えた世界からお届けしたいと思います。

展示を見た後に、昭和の時代について、また、これからについて、たくさんの人たちと語り合うきっかけとなりましたら幸いです。

（学芸員 小田桐睦弥）

平成30年度 展示会・講座のご案内

◆展示会

●テーマ展 「花巻人形～千紫万紅～」

期間：開催中～5月6日(日)

色とりどりの花が咲き乱れるがごとく色彩豊かな花巻人形の世界を300点の資料とともに紹介します。

☆関連事業

山口流篠笛演奏会

4月8日(日) 1部 10時～12時

山口千壽独奏 12時10分～12時30分

2部 12時30分～14時30分

●特別展「写真家が捉えた 昭和のこども」

期間：7月7日(土)～8月26日(日)

土門拳、木村伊兵衛など、日本を代表する写真家が、ファインダー越しに捉えた、激動の昭和をたくましく生きる子どもたちの姿を展示します(詳しくは前のページをご覧ください)。

☆関連事業

ギャラリートーク、昭和のあそび・七夕飾りなどのワークショップを予定

●テーマ展 「花巻の遺跡」

期間：9月15日(土)～11月18日(日)

花巻市内には旧石器時代をはじめとする約1,000箇所の遺跡があります。遺跡から見つかった遺構や遺物を通して、ディープな花巻の魅力を探ります。

☆関連事業

講演会・ギャラリートーク・体験学習



発掘調査風景(上台1遺跡)

●共同企画展 ぐるっと花巻・再発見！ 「斎藤宗次郎」

期間：12月8日(土)～翌1月27日(日)

花巻市笹間出身のキリスト教活動家。昨年 自筆の日記原稿が遺族から寄贈されました。斎藤の生涯と鋭い観察眼がとらえた花巻の様子を紹介します。

☆関連事業

記念講演会

クリスマスコンサート



斎藤宗次郎(大正期)

●テーマ展「台焼」

期間：2月16日(土)～5月6日(月)

親子5代に渡し受け継がれてきた、花巻を代表するやきもの「台焼」。初代勘兵衛の作品を中心に白磁染付けの美と技を紹介します。

☆関連事業

ギャラリートーク

体験学習



染付桜花文蓋付菓子器

●テーマ展「花巻人形」

期間：2月16日(土)～5月6日(月)

館が誇る500種類3000点以上にも及ぶ花巻人形。庶民の生活や文化、物語を色鮮やかに表現した人形の奥深い魅力に迫ります。

☆関連事業

ギャラリートーク

ワークショップ

体験学習



花巻人形 花魁

◆講座

- 館長講座 第1回 6月30日(土) 多田等観
- 第2回 9月22日(土) 花巻の遺跡
- 第3回 3月16日(土) 花巻人形

●古文書講座 初級編 全5回(10～12月予定)

※展示・講座とも内容に変更がある場合があります。
あらかじめご了承ください。



花巻市博物館体験学習メニュー



博物館では、花巻の歴史や文化を楽しく学んでもらうために、体験学習を行っています。
平成30年度も様々なメニューを用意しましたので、ぜひご参加ください。

● 勾玉づくり

日 時：平成30年5月3日（祝・木）

9月15日（土）

13時30分から

内容等：滑石を削って、磨いて、古代のアクセサリー「勾玉」をつくります。

参加費：340円

定 員：20名



● 琥珀玉づくり

日 時：平成30年5月4日（祝・金）

9月16日（日）

13時30分から

内容等：琥珀を削って、磨いて、古代のアクセサリー「琥珀玉」をつくります。

参加費：730円～

定 員：20名



● 縄文弓矢・火起こし体験

日 時：平成30年5月5日（祝・土）

13時30分から

内容等：弓矢を使った的当てと、木を使った火起こしに挑戦します。

参加費：無料

定 員：20名



● 花巻人形絵付け体験

日 時：平成30年7月29日（日）

平成31年3月24日（日）

13時30分から

内容等：平賀工芸社の平賀恵美子さんを講師に迎え、花巻人形の絵付けを体験します。

参加費：1,500円～

定 員：20名



【その他の体験学習】

● あんぎん編み

● 甲冑・武具体験

● こけし絵付け

● 壁掛け傘づくり

● 夢灯りづくり

☆ その他の体験学習は、体験を希望する日の2か月前までに博物館にお申込みください。

☆ 最小催行人数は5名です。（こけし絵付け体験のみ最少催行人数 10名）

☆ こけし絵付け体験、壁掛け傘づくり、夢灯りづくりは外部講師による体験となります。講師の都合により希望日に体験をお受けできないこともありますのでご了承ください。

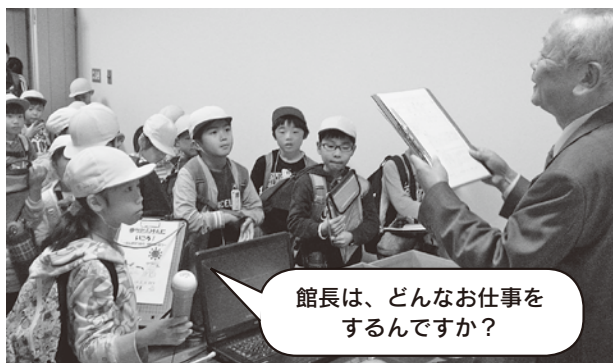


活動レポート

小中学校「博物館活用アラカルト」

当館では、小中学校の見学において、展示はもちろんいろいろと活用していただいております。その一部をご紹介します。

1. バックヤード見学（小学校2年）



（↑宮野目小学校2年生 館長室にて）

おもちゃのマイクを握り、事務室・学芸員室・受付等で職員に「お仕事は何ですか。」とインタビューして回りました。3t乗せられる大型エレベーターに学級全員で乗り、大喜びでした。

2. 「昔の道具」観察（小学校3年）



（↑桜台小学校3年生）

体験・講座室に昔の道具を並べ、児童がさわって観察できるようにしました。

3. 講座「花巻電鉄」（中学校1年）



（↑湯口中学校1年生 「花巻電鉄」講座）

昔、湯口中学校のすぐそばを花巻電鉄が通っていたということから、総合的な学習の一環として、体験講座室で学芸員から講話を聴きました。

4. 常設展示見学（小学校高学年）



（↑笹間第一小学校6年生 見学の様子）

江戸時代末期、学区出身で盛岡藩お抱えの刀鍛冶、宮川秀一作の武庫刀をのぞき込む児童たち。歴史を身近に感じた瞬間です。

5. テーマ展「花巻城展」見学（小学校6年）



（↑宮野目小学校6年生 見学の様子）

花巻城展は、博物館開館当初から要望があり、今回ようやく実現したものです。貴重な資料の中から選りすぐりの資料を展示し、多くの児童が見学に訪れました。児童は、「こどもガイド」でクイズ形式の問題を解きながら、本物の豪華さや迫力を体感し、最後に学芸員から解説を聞きました。

博物館では、豊富な資料を活かし、学校と連携しながら、児童生徒の学習を深めるための一端を担っています。

（社会教育指導員 菊池恵津子）

館長 コラム

つな しき てん じん 綱敷天神

2017年11月にエジプトのカイロ市にあるゲジラ・アートセンターで花巻人形が展示されているという情報が入った。展示会は、2011年に東北地方で発生した大地震と津波から1年という節目に、国際交流基金が企画した海外巡回展である。「東北の美しい手仕事」と題し、陶芸・漆工・染色・金工・木竹工等多岐にわたる手仕事の美しさを紹介した展示会である。

この展示会は、2018年1月末から2月までは、アレキサンドリア県ボルグエルアラブ市にあるエジプト日本科学技術大学で開催され、盛岡出身で同大学の国際ビジネス人文文学部の菊地敬夫教授が担当した。

今回展示されている二点の花巻人形は、「綱敷天神」と蓬萊である。当初綱敷天神には花巻人形とだけあり名前が付けられていなかった。送られた写真は、胸や肩や袖に梅鉢紋が描かれているので天神に間違いはない。天神は菅原道真が神になったものである。花巻人形の天神には様々な形のものがあるが、座天神には二種類ある。貴人

の座所とされる^{あげだみ}上畳の上に^{そくたいすがた}束帯姿で^{しゃく}勾玉を持ち威厳を正して座す座天神と綱が重ねられた上に座る綱敷天神である。

綱敷天神は、道真が太宰府に左遷されて赴く時に、一本の紅梅が今を盛りと咲き匂っており、この梅を眺めるために船の^{ともづな}鰻網を手繰り寄せ即席の座としたという伝承のある綱敷神社が元となっている。道真は、学者の家系に生まれ、文芸にも優れていたことから、学問の神、芸能の神としても信仰されるようになる。花巻人形には、綱敷天神の他、牛の上で本を読む牛乗り天神や、馬乗り天神などもある。

菊地教授の所には天神に関する資料を送り綱敷天神について補足説明をしてもらうようお願いした。先生からは、天神信仰は豊かな文化であることに感心しましたとあり、古代エジプトで最古のピラミッドを建造したとされる人物・イムホテップが後に神格化されることと同じ原理が働いているのではないかと思いますと記されていた。

エジプトと花巻人形、全く異質な組み合わせに戸惑いながら、昔サッカラの砂漠の中で見たジョセル王の階段ピラミッドに感動したことを思い出していた。

(館長 高橋 信雄)

行事予定

平成30年4月
平成30年7月

企画展示室

●テーマ展 「花巻人形展～千紫万紅～」

会 期：5月6日(日)まで

◇篠笛演奏会

日 時：4月8日(日) 10時～14時30分

演奏者：篠笛山口流家元 山口千壽 氏ほか

場 所：花巻市博物館エントランスホール

●特別展 「写真家が捉えた 昭和のこども」

会 期：7月7日(土)～8月26日(日)

講座・体験学習

【体験学習】

5月3日(祝・木) 勾玉づくり

5月4日(祝・金) 琥珀玉づくり

5月5日(祝・土) 縄文弓矢・火起こし

※内容に変更がある場合があります。

※時間は全て13時30分～

無料公開日

4月24日 (火) 開館記念日

5月20日 (日) 国際博物館の日

～休館日のお知らせ～

6月9日(土)～17日(日)までの期間は、館内メンテナンスのため休館とさせていただきます。

ご不便をおかけしますが、ご了承くださいますようお願いいたします。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1

電話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050

開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで

休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学 生	250(200)円
	一 般	350(300)円

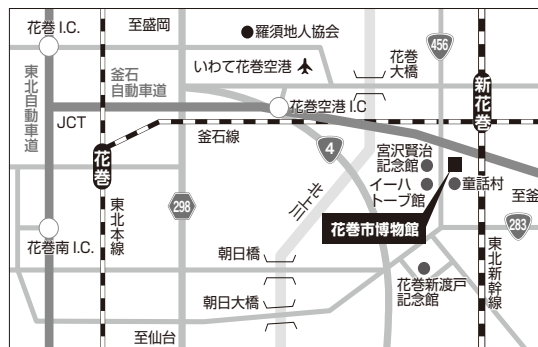
※()内は20名以上の団体割引料金

※割安な近隣4館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、入館料を定める場合があります。

交通案内

- 東北新幹線
新花巻駅より車で3分
- 東北本線
花巻駅より車で約15分
- 釜石自動車道
花巻空港 I.C.より車で約5分
- バス
新花巻駅より約5分
岩手県交通 土沢線
イトーヨーカドー行
賢治記念館口下車



◇ URL <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/hanamakisihakubutukan/>

花博 コレクション

Hanahaku collection



八重樫豊澤「萬歳図」
紙本彩色 / 本紙 116.0 × 54.5
落款「豊澤」
印章「滕實明印」(白文印)

八重樫豊澤（1763-1843）は、江戸後期に活躍した花巻の画人です。山水図、人物図、花鳥図など多岐にわたって描いており、中でも得意としたのは人物画でした。

萬歳とは日本の伝統芸能のひとつで、新年の言祝ぎの話芸として全国各地に伝わっています。太夫と才蔵が連れ立ち、腰鼓を打ちながら五穀豊穡を願い、賀詞を歌って舞い才蔵の言う駄洒落を太夫がたしなめるという滑稽な掛け合いです。

細部まで丁寧に描かれ、簡潔な中にも力強い筆線が見られ豊澤の画風を特徴づけるものです。また、豊澤の作品に「槍おどり図」（個人蔵）がありますが、それに描かれた人物と同じ衣装が描かれていますので、両作品の関連性を今後調べていきたいと思います。

（学芸員 小原 伸博）